

秩父 今宮神社  
奉賛会だより  
(令和七年正月号)



年頭のご挨拶



今宮神社 宮司 塩谷 崇之

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は当神社に格別の御尊神と御篤志を賜りまして誠にありがとうございます。令和六年の

「乙巳」(きのと・み)の年頭にあたり、中町奉賛会の皆様をはじめ、秩父地域のますますの隆昌と安寧を心よりお祈り申し上げます。

令和七年は、十千の「乙(きのと)」と十二支の「巳(み)」が組み合わさった「乙巳(きのと・み)」の年です。「乙」は、十千の二番目で

「木」の要素を持ち、草木がしなやかに伸びる様子や横へと広がっていく意味を持ちます。また

「巳」という字は、胎児の形を表した象形文字で、蛇(へび)が冬眠から覚めて地上にはい出す姿を表しており、「起こる。始まる。定まる。」な

どの意味があります。蛇は神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルともされております。

そこで、令和七年の乙巳の年は、「再生や変化

を繰り返しながら柔軟に発展していく年」「これまで努力してきたことが実を結び始める年」になると考えられます。  
乙巳の年にふさわしく、この一年が皆様にとって新しい挑戦と成長の機会で満ちあふれますようにお祈り申し上げます。

【蛇(へび)のお話】

蛇は、西洋の宗教では悪魔そのものと考えられていましたが、東洋とりわけ日本では、古来、信仰の対象となっており、谷神(谷や低湿地を司る)、豊穡神、天候神などとして崇められてきました。祭祀や祀りごとの「祀」に「巳」が用いられているのは、「祀」とは自然神を祀ることをいい、自然神の代表的な神格が巳(蛇)だったからです。また、蛇は脱皮をすることから「復活と再生」を連想させ、餌を食べなくても長く生きることから「神の使い」として崇められ、全国各地に蛇神を祀っている神社があります。とりわけ、弁財天(弁財天)とは深い縁で結び付いており、蛇は弁財天の使者や化身と信仰され、蛇の夢を見ると縁起が良いなどとも言われています。

弁財天には、蛇と習合した姿もあります。蛇の姿をした人頭蛇身の像や、頭上に蛇を刻む弁財天像が社や祠に祀られているのをご覧になった方も多いと思います。弁財天と宇賀神(蛇神)が習合して「宇賀弁財天」となり、頭上に翁面蛇体の宇賀神をいただく姿が広く信仰されています。

秩父市東町の「光臺山惣圓寺」にも「八臂大弁財天神」のご尊像が祀られており、財宝来招、商売繁盛、知恵授けの神として信仰されています。



宇賀弁財天(不忍池弁天堂)



八臂大弁財天(惣圓寺)

弁財天を祀る神社や寺院に巳の日に参拝すると、弁財天の使者である蛇が願い事を弁財天に届けてくれ、金運開運にご利益があるとされています。

【弁天さまと蛇】

【弁天さまとは】

七福神のひとつ「弁天さま」は、多くの神社仏閣で祀られ信仰を集めています。蓄財や芸能の女神として信仰されることが多いようですが、もともとの起源は、川の流れの妙なる様を神格化したとされる古代インドの女神「サラスヴァティー」で、その本来の神徳は、「水のめぐみ」であります。



サラスヴァティー



京都六波羅蜜寺の銭洗弁財天。

その信仰が我が国に伝わって、日本古来の水神信仰・龍神信仰と結びつきましたが、やがて水のせせらぎの如く素直で妙なる弁舌、音楽や芸能上達の神として尊崇されるようになりました。日本に伝来した時は「弁才天」と呼ばれていましたが、後に転じて「財を弁ずる」という福德の神としても信仰を集め、「七福神」の一人として広く知られるようになりました。

また、龍神さまと弁天さま恋人同士・相思相愛との伝承があり、恋愛成就・縁結びの御神徳があるとされており、その麗しい姿から、美容の神としても、女性たちの信仰を集めています。

【今宮神社の弁天社】

今宮神社でも、武甲山伏流水を湛える龍神池の畔に弁天さまが祀られています。昭和期までは、日本神話に登場する宗像三女神のひとりである「市寸島比賣命」を祀る「厳島社」と呼称されていましたが、平成十二年十一月十一日、日本三大弁財天として知られる江島神社から改めて弁財天の御分霊を勧請し、新たな神祠を建立して合祀しました。

ある「市寸島比賣命」を祀る「厳島社」と呼称されていましたが、平成十二年十一月十一日、日本三大弁財天として知られる江島神社から改めて弁財天の御分霊を勧請し、新たな神祠を建立して合祀しました。

弁天社の巳さま



【武甲山の大蛇】

当社の龍神様は、武甲山に棲む龍神が、地下の水脈を通じて里に降りてきてこの今宮の地を仮の住処としているといわれています。

ところで、かつて、まだ秩父に大陸文化の影響が少なかった時代、「龍」に馴染みのなかった秩父の人達は、武甲山に棲むこの神を「大蛇」と信じ、秩父の守り神として尊崇し祀ってきました。

武甲山の山腹には、「大蛇久保」という窪地があり、そこには「大蛇」が棲んでいるとされています。今宮の霊池、矢尾酒造、武甲酒造などの造り酒屋等、秩父の里に点在する湧水は、武甲山に降り注いだ雨水が、山中の聖地「大蛇久保」を経て長い年月をかけて地中を流れ地表に湧き出した神聖な伏流水です。年間を通して良好で柔らかな水質(軟水)を保ち、なめらかで大変美味しく、地域の生活や様々な酒造りにも利用されてきた水で、平成二十年に環境省が選定した「平成の名水百選」にも選ばれています。



今宮神社 金龍大弁財天尊像





大蛇窪 (笹久保伸氏撮影)

り上げられ、全国で放映されました。

社殿右手の待合室の壁面に展示されていますので、ぜひご鑑賞にいらしてください。

なお、昨年の干支「辰」を描いた金龍の巨大絵馬も、境内の東屋にて引き続き展示しております。こちらも力作です。併せてご観覧ください。

## 【今年度の行事予定】

◎立春祭（二月三日）

令和七年度は、閏の関係で二月三日に立春を迎えます。立春を迎えるにあたり、神職・崇敬者により新年一月五日より三十日間、互に「寒行」に入り、二月二日（節分）を以て満行を迎え、三日の「立春祭」におきまして皆様のご安泰・ご開運をご祈願いたします。

立春祭にあわせて頒布される『立春大吉』の護符は、春の到来を喜び、災厄と招福を願うもの。

当社では、数多の神々を産み給うた伊邪那岐（イザナギ）・伊邪那美（イザナミ）の二神のお力をもって春を招き入れます。

◎中町三社祭（三月二十日）

地元中町会・東町会及び秩父市消防団による  
火伏（火難除け祈願）のお祭りです。

明治十一年（一八七八年）三月二十一日、中町

を火元に発生した「秩父大火」は、秩父（当時は

「大宮郷」と呼ばれていました)の市街地約四万

坪四百四拾七棟を焼け尽くしました。二度とこ

のような災禍の起こらないよう、翌年三月、今宮

神社境内摂社に、火伏の靈驗ある「秋葉大神」を

祀り、以来百四十五年もの永

きに亘り、毎年、大火のあつ

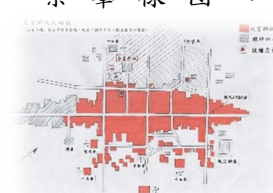
たこの日、地元町会や消防団

を中心として、火伏の神様

(秋葉大神・古峯大神・三峯)

大神)に防災を祈願するお祭

が齋行されます。



◎龍神祭（四月四日午前）

当社の霊池に祀られた八大龍王神のご神徳に感謝するお祭です。龍神祭は明治元年の神仏分離令以来行われませんでした。が、平成四年（一九九二年）に復活しました。毎年四月四日午前、龍神様を慕わ

れる多くの氏子・崇敬者らの参列のもと、盛大に祭典が執り行われ、ご神前にて、巫女による舞や奉納演奏などが献上されます。



◎水分祭（四月四日午後）

水分（みくまり）神事は、秩父神社でおこなわれる御田植神事に先立ち、秩父神社に龍神池の御神水を授与する神事です

秩父神社から神官・伶人・作家老・神部らからなる御神幸行列が当社を訪れ「水乞い」を行います。当社の宮司から秩父神社に、当社の龍神の御分霊を『水麻（みずぬさ）』（龍神様の御神徳）として授与します。秩父神社は、この水麻を奉斎して秩父神社に持ち帰ります。

秩父神社では授与された水麻を、田の水口をかたどる「藁の龍神」の頭部に奉ります。すると、境内の敷石に龍神様の御神霊が行き渡り、そこは一面の水田と見立てられ、神部らによって「御田植神事」が執り行われます。

◎役尊神祭（六月八日）

秩父霊場の開祖であり、また今宮坊の開基でもある役小角大神（役行者）の御聖徳を偲ぶお祭り。毎年、役行者の縁日である六月七日に最も近い土曜日または日曜日に、役尊神祠（行者堂）正

面にて齋行されます。

祝詞奏上に続いて「特別護摩供」が執りおこなわれ、導師による護摩と読経の中で参列者による玉串奉奠を行います。神道神事にこのような神仏習合の形式はいまでは珍しく、貴重な祭祀のひとつです。

◎大祓神事（六月晦日・十二月晦日）

年に二度、六月と十二月の晦日(月の最後の日)におこなわれる神事で、半年間に身についた罪穢を祓うために行う神事です。夏の大祓を「夏越の祓」、冬の大祓を「年越の祓」と呼びます。

当社では氏子・崇敬者に予め配布した人形（ひとかた）に罪穢れや災厄を移し、火・水の靈力にて被い清め、身も心も新たに、明るく正しい生活を続けられるよう祈願します。



◎例大祭（九月二十八日）

当社本殿に祀られている伊邪岐大神・伊邪那美大神・須佐之男大神・宮中八神（御巫八神）の御神徳を仰ぎ、その御神恵に感謝するお祭で、毎年九月二十八日に本殿にて斎行されます。々への礼拝を通じて、日頃のご加護に対し感謝するとともに、新たな一年の無病息災を祈願いたします

